慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	グローバルCOE共催シンポジウム : 心に関する全日本ネットワークの構築
Sub Title	Symposium by Global-COEs "Organilzing a Japanese network on kokoro (mind)"
Author	
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム人文科学分野論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2009
Jtitle	活動報告書 Vol.3, (2009.) ,p.29- 29
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	第2章 : シンポジウム等の活動報告
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002002-20100300-0029

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

5 グローバルCOE共催シンポジウム：心に関する全日本ネットワークの構築

Symposium by Global-COEs "Organizing a Japanese Network on Kokoro (mind)"

開催日　2009年8月28日
企　画　心に関するグローバルCOEネットワーク（お茶の水女子大学、玉川大学、京都大学、北海道大学、慶應義塾大学）
講演者　内田伸子（お茶の水女子大学グローバルCOEプログラム　格差センシティブな人間発達科学の創成）、坂上雅道（玉川大学グローバルCOEプログラム　社会に生きる心の創成～知情意の科学の再構築～）、子安増生（京都大学グローバルCOEプログラム　心が活きる教育のための国際的拠点）、山岸俊男（北海道大学グローバルCOEプログラム　心の社会性に関する教育研究拠点）

2009年8月28日第73回日本心理学会（於立命館大学）においてグローバルCOE共催シンポジウム「心に関する全日本ネットワークの構築」が開催された。「こころ」に関する5大学のCOE代表が各拠点での成果を発表し、ネットワーク構築にむけた意見交換がなされた。また学会展示場ではこれらGCOE拠点の出版物等の展示・頒布が行われた。

現在心に関係したグローバルCOE拠点は5つあり（慶應義塾大学、北海道大学、お茶の水女子大学、玉川大学、京都大学）それぞれが、教育研究拠点として多くの成果を挙げてきたが、幅広い研究領域での活動を行うためには、これらが連携して挙国態勢での当該分野の教育研究体制を確立する必要がある。そこで、5拠点による「心に関するグローバルCOEネットワーク」構築が具体的な計画として考えられてきた。幸い立命館大学での第73回日本心理学会大会で、5拠点共催でのシンポジウムが開催できたが、残念ながらグローバルCOE関係者以外の関心はあまり高くなく、聴衆も限られていた。今後、各拠点をハブとする挙国態勢確立のために、このネットワークがすべての心に関心のある研究者にとって意義のあるものだという広報活動が必要になろう。

シンポジウムでは慶應義塾大学の渡辺がネットワーク構築の趣旨説明を行った後、各拠点の活動状況、どのような相互利用が可能であるかを報告し、最後に全体討論を行った。全体討論ではネットワーク構築の確認とともに今後の共同事業、情報共有、日本心理学会大会での共催シンポジウムの開催などが話し合われた。その結果、2010年度には慶應義塾大学と玉川大学共催での国際セミナー、第74回日本心理学会大会での共催シンポジウムなどが実現する予定である。

当日の発表概要は以下の通り。

●「論理と感性の先端的教育研究拠点」渡辺茂

この拠点では古くからの人文科学の課題である人間の論理と感性の問題を取り上げている。人間の判断における二重過程は、旧くはカントにおける「悟性と感性」でも示されており、現代ではダニエル・カーネマンも二重過程を指摘している。この問題を動物研究や脳科学から文化的制約や美術作品の分析まで広く研究し、分野融合的な次世代の研究者を育てようとしている。

●「格差センシティブな人間発達科学の創成」内田伸子

「格差センシティブな人間発達科学の創成」拠点は、3つの格差「国際的格差、教育・社会的格差、養育環境格差」の観点から、人間発達の時間軸を貫く格差の再生産構造を浮かび上がらせることによって構造転換の道筋を探求するため、3つの縦断パネル調査を推進している。その進捗状況について報告すると共に、心のGCOE拠点の教育・研究の連携協働のしくみの構築について提案する。

●「心が活きる教育のための国際的拠点」子安増生

本拠点は、京都大学の心理学と教育学の研究者が集まって形成されている。本プログラムの眼目は、人間が教育を通じて知識・技能を獲得することによって得られる「有能感」、自然・社会とつながることによって得られる「生命感」、その2つを一定の目標に向けて十分に発揮することによって得られる「達成感」が「幸福感」の形成に結びつくというモデルに基づき、国際比較研究を実施するものである。

●「心の社会性に関する教育研究拠点」山岸俊男

北海道大学「心の社会性に関する教育研究拠点」における、「正統的周辺参加」の原理にもとづく若手研究者育成のための施策の概要と特色、及び若手研究者育成の実績について説明したのち、3つの中核的研究テーマである「文化の制度的基盤研究」「社会行動の適応的基盤研究」「感情の生態学的基盤研究」の目的及び研究内容と、これまでに達成した研究成果について紹介する。

●「社会に生きる心の創成」坂上雅道

人の心はそれをはぐくんできた社会を反映する。また、我々は脳が心をつむぎだすとも信じている。したがって、心の理解とはそれが適応する社会に対する脳の働きを理解することに他ならない。玉川大学GCOE「社会に生きる心の創成」拠点では、人文・社会科学と脳科学の融合的理解をより一層進め、人の心の理解に関係する伝統的な学問の再構築ができる人材育成を行う。

Symposium entitled "Organizing a Japanese Network on Kokoro (mind)" was held at annual convention of the Japanese psychological association in Kyoto. Each leader from five GCOEs studying mind introduced their activities and discussed about the network.